

建廃協NEWS59号



講演の集い開催

例年は秋風が吹く気持ちよい季節になっていますが、首都圏を直撃した台風の影響や、秋雨前線の影響があっただけで、当日はあいにくの天気となってしまいました。そんな足元の悪い中、2年ぶりに開催された「講演の集い」。今までの明治記念館から文京シビックホールと会場も変更となりました。講演の演目が「アスベスト問題を考える」と非常に関心があるものだったこともあり、事前申込みでは早々とお断りせざるを得ない状況でしたので、講演が始まる前にはほぼ満席に近い状態になっておりました。



島田理事長

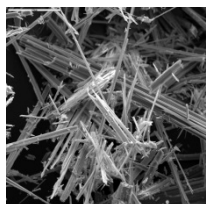
冒頭に、島田理事長より御来場の御礼と、参加できなかった方へのお詫び、今回「アスベスト問題」を取り上げた理由として、これから増えてくる事が確実に予測されますので、環境に配慮した取扱いや、健康被害の防止対策など今後のあり方について、皆さんと考えていきたいと挨拶されました。今回はアスベストを中心の講演となりますが、併せて建設廃棄物協同組合の会員メンバーで構成されている「小野組」より、「建設混合廃棄物の選別残さと主な建設廃材における有機汚濁性の検討」についての研究発表も行われました。

最初に、埼玉県環境科学国際センター、川崎幹生様より「アスベストの事前調査」と題して御講演を戴きました。

事前調査をする理由としては、アスベスト（石綿）は発がん性物質として知られており、解体工事等におけるリスクや震災等の災害時対策など、ガイドライン見直しを含め平成28年5月から調査をし、同11月に一次回答がまとまりました。特にアスベストは発症までの潜伏期間が長い事と（40～50年程度）、四大公害よりも大幅に死亡者が多い為、アスベストが積極的に使用されていた時期と潜伏期間が重なってくる今、調査や対策が急務です。また検査方法についても新しく安全な方法も開発されていますので、今後ガイドラインに盛り込まれてゆく方針との事でした。



川崎氏



アスベスト

次に、厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課・中央労働衛生専門官 小林弦太様より「更なる石綿漏洩防止対策」として石綿飛散漏洩防止徹底マニュアルについて、労働法令や、解体マニュアルについての説明がなされました。特に法令関連は難解な文書が多い為、我々に解り易く説明されるのに苦勞されていたようでした。



休憩を挟み「小野組」の発表です。会員メンバーの中でも若手と言われる3名の発表が始まり、建設混合廃棄物の基本から始まりふるい下残さの試験方法など、顧問である小野先生の指導の下、自分達が手がけた分析方法などを説明していきますが、このような大舞台での講演経験が少ないせいもあり、緊張を隠せません。それでも3人が協力しなとか説明を終えた時には安堵の表情を浮かべておりました。



小林氏

ここからの二例は実際にアスベスト除去を手がけている二社より、その最新方法の説明がなされました。



藤林氏

まずは「アスベスト除去の実際」として、煙突断熱材や外壁仕上塗材の除去を株式会社藤林商会、代表取締役藤林秀樹様より動画を交えての説明がなされました。

実際、青森でアスベスト除去を行っている方法は、水圧を用いてのアスベストや仕上塗材を除去しており、汚染水は出るものの、飛散する事がなく、安全性や作業方法の効率性などとても優れていました。また、形状や材質にも関係なく作業が可能なので、柔軟な対応が出来ます。

一方「住宅屋根用化粧スレートの撤去」として、シールドサクシオン工法を用いているのが、山口県宇部市で活躍されています、株式会社コトガワ 代表取締役佐々岡良介様です。

シールドサクシオン工法とは、屋根材の釘と一緒にアスベストを吸入してしまうという工法で、防災シートや防塵服などが必要ないくらい安全性の高い工法です。これによりコストダウンや作業時間の短縮などが図れるとのことでした。



佐々岡氏

様々なアスベスト対策や除去方法が開発されていく中、我々が理解し上手に使う事が大事だと感じました。



アンケート集計結果はこちら